サービス業部会正副部会長会 議事録

日 時：令和3年12月2日（木）10時～11時

場 所：商工会議所 4階 会議室 EF

参加者：12名

【部会長】長谷川

【副部会長】青山、立磨、大竹、砂原、野間、横尾

【副会頭】岡部 【事務局】鈴木、白木、高木、日高

- 議 題：1) 令和3年度 部会事業について
2) 令和4年度 部会事業計画について
3) その他

はじめに、長谷川部会長より挨拶。

議題1) 令和3年度 部会事業について

事務局より資料に沿って説明。

長谷川：今年度の部会事業について意見を頂きたい。

青 山：コロナ渦において、新しいことに取り組む意欲のある事業者と意欲がない事業者の格差が広がっていると感じる。意欲のない事業者に情報を届けるのは困難。インボイス制度についても情報が届かない事業者もあるので、会議所がセーフティネットとなるような役割が求められる。

野 間：インボイス制度については、免税事業者をケアする必要がある。新規開業の事業者は2年間消費税が免税になる。そのため今年の10月開業の事業者が多く、設立ラッシュとなっていた。インボイス制度が始まると、そのような優遇措置がなくなることもアナウンスする必要がある。

長谷川：最近の銀行への相談では、雇用制度の見直しや人材募集、働き方改革など、人に係る内容の相談が増えてきていると感じる。

議題2) 令和4年度 部会事業計画について

事務局より資料について説明。

長谷川：事業計画について意見を頂きたい。やはり大きなテーマはDXやIT化だと思う。

岡 部：会議所の会員では20人以下の小規模事業者が9割以上となっている。デジタル化に対して意欲があるところは良いが、意欲がない事業者へどのように支援するか課題。どこまで目線を下げて事業を行うか悩ましい。

長谷川：ペーパーレス化という点では、我々の銀行では書類が以前と比べて8割減った。

岡 部：役所など行政から提出を求められるのは、紙での提出を求められる。

砂 原：役所としても一気に紙をなくせないが、ハンコをなくすことは進んでいる。行政も徐々にペーパーレスの方向に進むはず。

青 山：会議所としてどこまで目線を下げて事業を行うか課題。伴走型支援というように一緒に走る気のある事業者は良いが、その気のない事業者へ支援しようとするとならば労力が相当かかる。何か事業を行うにあたり、それに手を挙げてついてきてくれる事業者を想定し、そのような事業者がさらに伸びるような事業を計画していくべきと考える。

岡 部：会議所の役割として、会員に情報を提供しないといけない。サービス業部会は大所帯なので最大公約数をどう捉えるか難しい。

大 竹：資料にある計画を実行することで事業者にとって何がプラスになるかを明確にする必要がある。デジタル化やペーパーレス化といっても、そのような取組みをして業務が効率化され、その結果得た時間でなにをするかなど、ゴールを指し示す必要がある。

横 尾：企業にデジタル化を勧めようにもそれぞれ環境の違いがあるので難しい。自社だけでなにか始めるのは不安だと思うので、複数社まとめてなにかできるようなものを提案出来たらと考える。IT化やペーパーレス化など、ある程度パッケージ化しているものを見せることができれば事業者も分かりやすいと思う。

議題3) その他

事務局より資料をもとに説明。

部会再編について

- ・不動産業が建設業部会に移行された。
- ・サービス業部会の分科会としての活動をどのようにするか、今後検討する。

岡部副会頭よりあいさつ

11時00分終了